

第49回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょう。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



洋上大学&ハーバード社会起業大会プログラム

毎年実施している二つの活動が、今年実施されましたので、報告したいと思います。

セメスター・アット・シー（洋上大学）

洋上大学は米バージニア大学が学術協力機関となり、非営利機関の船上教育研究所（インスティテュート・オブ・シップボード・エデュケーション）が運営しているプログラムです。このプログラムは、毎年春学期と秋学期にそれぞれ世界一周の航海に出て、船内で大学の授業を行ないながら、世界各地の港に寄港し現地の人々との交流を行います。

2015年春学期の最初の外国寄港地として洋上大学は1月26日～27日の二日間、横浜港に停泊しました。

筆者は毎年神奈川SGGクラブ（神奈川善意通訳者の会）にご協力をお願いして、ホームビジット（家庭訪問）と鎌倉の禅寺体験を同プログラムに提供しています。今年もホームビジットは4つのご家庭で引き受けて頂きました。禅寺は、建長寺で行って頂きました。洋上大学には700人前後の大学生、100人前後の教職員、50人前後の生涯教育プログラムの

シニアメンバー、そして50人前後の船員が乗っています。上記の二つのプログラムも、参加者は様々で、大学生や教職員の方々が参加されました。

建長寺は40人以上の参加者が集まり、その中には講義の一環として日本の歴史・文化を学ぶクラスの教授とその学生もおりました。ほぼ全ての参加者が初めての座禅体験でしたので、とても喜んでおられました。



建長寺での集合写真
(画像ご提供：神奈川SGGクラブ)



ホストファミリーの方と日本人形の観賞
(画像ご提供：神奈川SGGクラブ)

洋上大学の客船エクスプローラーは今回が最後の航海となり、その後引退することです。洋上大学が、次に横浜港に来るときは新しい客船で来ることになります。今から楽しみです。



今回が最後の航海のエクスプローラー
(筆者撮影)

ハーバード社会起業大会プログラム

このプログラムも毎年2月または3月に実施しています（今年は2015年2月11日～18日に実施）。ハーバード大学で開催される社会起業大会（Social Enterprise Conference）への参加と、ボストンのソーシャルビジネスのリーダーや実践者にお会いするスタディツアーです。次号以降でも触れていきたいと思いますが、今回は、ソーシャルビジネスの訪問先の一つとして伺ったUTEC（総合青少年平等センター）について記したいと思います。UTECのあるボストン郊外のローウェル市は、産業革命後の米国の主力産業であった繊維産業の主要な地域の一つでした。その後、繊維産業の衰退とともに、ローウェル市からは繊維関係の紡績工場などは消えていき、現在ではボストンのベッドタウンとなっています。ボストン市そのものは人口が60～70万人程度の中堅都市ですが、ボストンの周辺地域を含めると400万人近い人々が住む大都市です。他の大都市と同じように、大都市には職があるということで、アジアや南米からの移民が多く住みはじめ、移民の第2世代、第3世代の時代になってきています。ボストンで働き、家をローウェル市に持つ家庭が多い一方、経済的に苦しい移民出身の家族も多く、経済格差は大きな社会問題となっています。経済的に苦しい家庭の子供達は、ギャング（暴力団のようなもの）に誘われることが多く、本来は学校に通ってペンを手に勉強するべきところ、ピストルを持って犯罪に走ってしまう事件が1990年代に入ると増えてきました。ピストルではなく仕事や勉強をしようという気運がローウェル市で起こり、1999年に地元の人たちが中心となりUTECが設立されました。UTECは、何らかの事情で高校に行けなくなったティーンネイ

ジャーに、高校卒業水準の学力を得る機会を提供し、かつ、職に就けるための職業訓練を提供するセンターです。家庭が貧困のため高校に通えないという青少年もおりますが、多くの場合は高校に進まずに犯罪を犯して

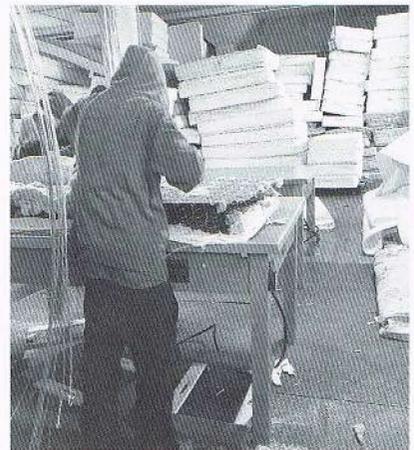


LEED プラチナ認証のUTEC本部
（筆者撮影）

しまつて、刑務所に服役している青少年です。UTECは、これらの青少年に出所後の社会復帰を円滑に進めるために、出所の6か月前から社会復帰の研修を週3回行っています。出所後は、UTECでUTECが運営するレストランやリサイクルセンター（ベッドのマットレスを解体してリサイクルする会社）で実際の職業訓練を受けることができます。このようなUTECの活動により、若い服役者は、手に職を付けた状態で社会復帰が可能となり、再び犯罪を起こして刑務所に戻らないようにしています。再犯率が6割以上という現実がUTECのような施設の必要性を高めています。

UTECの施設には勉強や職業訓練をするための部屋が複数あり、チームワーク研修用の小さな体育館があります。また、この施設は1837年に建てられた教会をリフォームして活用しています。さらにこの施設はLEEDというエネルギーおよび環境デザインを優先する米国グリーン建築基準（Leadership in Energy & Environmental Design）においてプラチナ認証を得た世界で最も古い建物です。

このようにUTECは社会面、環境面にとっても配慮したソーシャル・エンタープライズとして高く評価されています。若者（16歳～24歳）の再犯率は高く、それを引き下げるための試みが全米各地域で行われています。そのためUTECの試みは成功事例として注目されています。



マットレスのリサイクル工場働く
UTECの若者
（筆者撮影）

略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント；DWMインカムファンズおよびスワンクキャピタル日本代表。明治大学公共政策大学院兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンズオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」（ピエトラ・リポリ著 東洋経済新報社）「暴走する資本主義」「格差と民主主義」（ロバート・ライシュ著 東洋経済新報社）「ジェンガ 世界で2番目に売れているゲームの果てなき挑戦」（レスリー・スコット著 東洋経済新報社）などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。